

# 第6回中部圏広域地方計画有識者会議（概要）

日時 令和6年6月24日（月）15：00～17：10

場所 ウインクあいち 1002号室

## 1. 開会

（中部地方整備局：佐藤局長）

- ・計画を作り終わりということではなくて、やはり社会を変えていくということが非常に重要なポイントである。そのためにはデータに基づいて、いろんな方々に訴えていくということが非常に重要になり、数多くのステークホルダーの方々と意見交換しながら計画を実現させたい。議論をするためにも、ここで中部圏の特徴について、説明させていただく。
- ・首都圏や近畿圏と比べると、多極分散型の国土が形成されている。
- ・首都圏と比べると名古屋圏の通勤時間はだいたい半分程度である。
- ・住宅の面積について、首都圏より約3割、近畿圏より約2割大きな家にお住まいである。
- ・可処分所得について、愛知三重岐阜の3県は東京大阪よりも大きい。
- ・世帯別の貯蓄高も首都圏近畿圏よりは1割大きい。
- ・以上からも中部圏は生活圏的に見ると豊かな地域と言え、その結果として出生率も大都市圏の中では非常に高いレベルにある。
- ・課題としては、特に若い世代の人口減少がある。大学進学時に、特に若い女性が抜ける。
- ・出産の時に離職する人の割合は実は一番高いのが愛知県。育児している女性の有業率は非常に低く、非正規で就業調整している女性の数が多い。管理職の女性の割合も低い。特に製造業が多いこの地域での仕事の働き方を、経済界も含めてどのように考えていくのかという大きな課題もある。
- ・議論を重ねながら計画を作っていくこととともに、将来動かしていくための仕組みづくりについてもしっかりと取り組んでいきたいので、今日は議論をよろしくお願いしたい。

（事務局：佐藤中部圏広域地方計画推進室長）

- ・植松委員、白鳥委員、福和委員は、欠席

## 2. 議事

（1）次期中部圏広域地方計画検討スケジュールについて

（事務局：大竹中部圏広域地方計画推進室総括副室長）

- ・**資料1** 説明

（奥野座長）

- ・ただいまの説明について、ご質問等あるか。

（特になし）

## (2) 次期中部圏広域地方計画 中間とりまとめ（素案）について

（事務局：大竹中部圏広域地方計画推進室総括副室長）

- ・資料2、資料3、資料4、資料5 説明

### （奥野座長）

- ・各委員から順番にご意見をお願いしたい。

### （浦田委員）

- ・P58 地域産業の活性化についての記載のところに、観光についてはスマホアプリというデジタルの項目が記載されているが、他の項目には記載がない。人口減少で人手不足ということを考えると、産業のDX活用など他の項目でもデジタル活用について検討するべき。
- ・P61 あたりにも、デジタル活用基盤の強化としてデータ連携基盤の構築を記載するべき。
- ・中部地区が強みを持つ製造業は、終身雇用の時代は良かったが、今はリモートワークのしやすさや全国転勤の無さ、また市場価値が下がりにくく仕事というところに、就職活動を行う学生が向かう傾向がある。結果、都内に本社を構える企業へ人が流れているという傾向がある。この地域としてどうしていくべきなのかを検討するべき。
- ・交流促進や観光交流を強めていくとオーバーツーリズムの問題が起きるため、十分検討していく必要がある。高山市のような観光バスの社会実験や国交省との連携による交通対策の検討なども増やしていけると良い。
- ・地域の魅力を活かした観光交流について、地域のお祭りも人手不足が課題になっている。飛騨の古川祭りのように外の人が助ける仕組みを使って神事を行うなど、一緒に考えていくと良いと感じる。

### （奥野座長）

- ・飛騨のヒダスケは外の地域から人が手伝いに来ている。

### （江崎委員）

- ・P31 の女性活躍について、女性の進出や就労という点は重点的に記載されているが、子育てが安心してできる社会や少子化の対策といった部分についてもっとしっかりと考えていかなければならぬ。
- ・インクルージョンの推進が言わればじめているが、性的マイノリティの方々やその多様性については認められてきているものの、それに対する積極的な取り組みが今後注目されはじめる。
- ・ロサンゼルスのDMOによれば、ある観光施設では、訪問者の8%が性的マイノリティの方で、その方々が全体の消費額の20%を占めていたという事例があった。こういう方々の観光や芸術活動、趣味といった余暇活動の質を高めるということは必ず求められてくる。そういうことを考える余地をもたせておく書きぶりが必要だと考える。
- ・P59 快適・安全安心な生活環境実感プロジェクトについて、地域活性化の取り組みとセーフティーネットは別の取り組みとなっていることが多いが、地域活動に参加することでつながりができ、支え合いの仕組みの中にも入れるというメリットについて強調するプロジェクトが必要だと感じた。それにより制度が補完され、誰もが取り残されないようなセーフティーネットができる。

- ・P37 のスタートアップの創出について、プロジェクトとしてはこういうネットワークを構築することと、そのネットワークを機能させ、シナジー効果を生み出すためにどう構築するかというところが、スタートアップ支援に必要だと感じた。
- ・P45 の国際大交流時代を拓く観光・交流について、中部地方を広域でつなぐ具体的なテーマや資源などを想定し、深めに書いてもらうとわかりやすいと感じた。

**(奥野座長)**

- ・ものづくりは大事だが、ものづくり一辺倒ではなく、幅広い方が良い。愛知県には芸術や音楽大学もあり、金融も含めた支援は考えるべき。

**(小川委員)**

- ・目標1と目標3で2回、「観光交流」が出てくるので、そこは内容を切り分けて、なるべく重複しないように書かれると良い。
- ・P35 地域交通について、移動の質的向上だけではなく、量的な側面を今後10年間でどういう方向に持つていこうとしているのか。バスを例にすると、今あるルートとか本数を維持することを目標にしているのか、あるいは本数を減らすのはやむを得ないが、まちづくりと併せて全体の利便性は維持しようとするのか。質的向上を図ると量的な確保にもつながるという見通しを立てて戦略的に向上を図ろうとしているのか。一般市民としてはバスが減るとかルートがなくなるといったところが心配であり、それがQOLとかウェルビーイングを下げる大きな要因になるため、どういう方向に持つていこうとしているのかが書かれると良い。
- ・P37 の農林水産業について、供給サイドや生産サイドの方の話に偏っている。供給を強化すれば、需要は自然に増えて生まれ農林水産業の付加価値が高まるのではなく、むしろ需要サイドを高めれば、供給というのは追いついていくような産業だというふうに認識している。需要サイドを強調するべきで、特に海外需要の取り組みを意識したい。中部地方は優れた港湾や空港があるので、それらを活用することにもつながる。

**(加藤委員)**

- ・P57 のワーク・ライフ・バランスの休み方改革について、中部圏としてはこれからイノベーション創出していこうとしているエリアであるため、働き方や休み方を自由に選択できるとか、柔軟性があるエリアであるといった書き方が良い。
- ・P58 の地域未来牽引企業について、考え方方が古いと感じる。本当に地域を変えていこうと思っている若い人たちや、新しいことをやっていこうとしている人たちにもっと、気持ちとか、理念とか、そういったもので若手を巻き込んでいける定義であると、ここに書かれたことが実現していく。
- ・P73 の産業構造の転換について、スタートアップをやっていて、人材がいないというのを実際に感じる。特に若い人たちは優秀だが、リベラルアーツが足りないと感じる。感性や優しさが足りず、薄っぺらなアウトプットになってしまい、世界の新しい事業創造にはかなわないという結果が出ている。戦略産業強化を担う人材の教育の観点から改革していかないと、リベラルアーツ部分がなかなか育たない。
- ・スタートアップについて、インドは新しい事業創造に対してのサポートが手厚く、日本は本当に薄

い。国際的な機関と連携して、知恵や価値観を導入することは大変重要である。

#### (奥野座長)

- ・地域としてリベラルアーツを強化する必要がある。工学だけではなく、人文・社会学や芸術など幅広い分野に厚みをもたせ、名古屋に来れば面白いというふうに思ってもらえることが大事。

#### (末松委員)

- ・P57 の女性若者の流出抑制・確保について、女性や若者に選ばれる地域となるためには、地域の魅力の向上・魅力的な就労の場の確保・進学機会の確保の三つの観点が重要である。1点目の「地域の魅力の向上」において、不便性を感じさせないために、魅力的な都市空間の創出に加え、子育て環境の改善や交通環境の改善が必要であると考える。地方都市にとっては利便性と移動の質的な向上はもちろんあるが、現在、量的な確保も非常に問題となっている状況。
- ・2点目の「魅力的な就労の場の確保」について、若い人が魅力を感じる産業の創出維持に加え、女性が働きやすい産業構造への転換が必要であると考える。P75 の産業構造の転換部分には、もう少し若者や女性を意識した視点からの記述があつてもいいのではないか。
- ・3点目の「進学機会の確保」について、特に三重県や静岡県は大学進学時の流出割合が大変大きい。今後、三重県から他県に行くのであれば、せめて中部で止まっていたらしくような政策がないか考えている。
- ・P62 の就職時の流出に備えて、中部圏の高等教育機関の魅力向上、この地域の大学等々の魅力発信について、もっと書き込んでいただくと良い。特に私立大学において、少子化の中でそれぞれ大学運営についても非常に厳しい状況である。若者がどう学習できるかというようなことは、さらに精査をされていく時代になる。
- ・P72 の世界をリードする産業進化のプロジェクトについて、九州圏ではアジアのゲートウェイという方向性が明確に打ち出されており、国際競争力を高めているが、中部圏も既存の産業の強みや新たな産業構造にチャレンジをしていくという方向性を出していく必要がある。
- ・北陸圏との広域連携について、1時間圏内の広域連携を強みに生かしながら、観光交流の促進を含め、しっかりと施策として打ち出していかなければならないと考える。その中で双方の強みを活かし、弱みをカバーができるような地域の活性化が必要。

#### (奥野座長)

- ・白タクやライドシェアで想定しているのは大都市圏の郊外など、人が多くいる場所のこと。本当に困っている中山間地に対してライドシェアといつても、軽トラを運転できる人もいない。
- ・国際競争の中でも負けない大学を作り、ランキングを上げために良い教授を世界から集める必要がある。その努力をしていると理解しているが、規模的に私学は入ってきにくい。

#### (谷川委員)

- ・計画概要 P11 環境・国土サステナビリティプロジェクトの目的・コンセプトのところは、やや自然エネルギーに特化したような書きぶりになっている。エネルギーの視点から考えると、日本はまだ8割が化石燃料を使っており、化石燃料を使用する部分のカーボンニュートラルが必要になってく

る。中部圏の製造業の強みを活かすのであれば、再生可能エネルギーのみならず、やはり火力発電のカーボンニュートラル化、ゼロエミッション化、新エネルギーである水素、アンモニアに転換していくというところ、またそれらを海外から輸入するための港湾計画の整備が大切になるという記述をしていただきたい。エネルギーの安定供給とカーボンニュートラルの両立が必要である。

- ・ネイチャーポジティブについて推進をするなら、豊かな海と綺麗な海は違うということを誤解されないようにするべき。水の水質が良くなりすぎると海洋生物の多様性は少なくなる。生物も共に共生共栄できていくという記述があると良い。

#### (鶴田委員)

- ・資料4について、産業の項目が、あちこちに散らばっている印象を受けた。
- ・若者や女性という記述のところと、高齢者、障害者、外国労働者という記述のところがある。あえて使い分けているとは思うが、例えば資料5の56ページは、高齢者、障害者、外国労働者というような言葉も入れてもいいのではないか。
- ・P57について、かわまちづくり支援制度という言葉が出てきているが、みなとまちづくりについての言及がない。
- ・P58の移住者向けの助成制度の部分については、空き家の活用が有効であると考えるため、文言を追加するべき。
- ・P58の地域産業の活性化についての部分に、中小企業のスタートアップ支援について織り込まれるべき。また、94行目の「官民連携」は、産学官にするべき。地域の「学」が、新しいビジネスモデルの構築にも積極的に取り組むことを若者にアピールできると圏域外への流出を止めることにも繋がる。
- ・P59の農林水産業の部分について、若者や女性や外国人労働者が移住するような政策を入れるべき。
- ・P72の597行目から601行目までは、P75の5.産業を担う人材の育成・確保の方に持っていく方が座りはいい。
- ・P73の戦略産業の強化の部分に半導体産業入れなくて良いのか。半導体産業をはじめとする外国の企業を積極的に誘致し、九州に負けないようにやっていくことは戦略の一つの柱になって良いと考える。
- ・P74の668行目からの部分について、静岡県内の大学だけ書くのではなく、オール中部の大学で共同研究や人的交流などを促していくというような仕掛けを考えるべき。
- ・P81の観光の部分について、どちらかというと、今ある観光資源をいかにうまく付加価値を高めて、良く見せるかというところに重点が置かれているように感じる。それだけではなく、新たな観光資源の発掘に若者の力を借りる、あるいは外国人の方のセンスを取り入れるなどの仕掛けが必要。

#### (戸田委員)

- ・P34のデジタルの活用の部分について、デジタル化に基づいた新たな広域連携のあり方についての記述がない。デジタルがあるから地域のつながり方が変わってくるし、デジタルデバイドを起こさないなどの指摘もあって良い。
- ・P35の地域生活圏の部分について、前回、「固定」と「可動」と「仮想」とのベストミックスについて

て申し上げた。可動の部分についてはコロナで「可動」のものが随分出たが、まだまだ未熟。並列にせず、「可動的な空間を創出し」というような意味合いをもたせる必要がある。

- ・リニアの名古屋までの開通時期が遅れるということはもう公表されているが、関西までの開通に時間差がなくなるという考えのもと、近畿圏との連携のあり方について意識をしておくことが必要。
- ・P77 のリニアに関する名古屋駅の部分に、大学などの知的集積、水辺空間を活かしたアーバンリゾートのように、都市空間を具体的にイメージできるような記述があるとわかりやすい。リニア中間駅について、例えば飯田のように、リニアでいろんな圏域がつながり、これを機会に地域の独自性をもっと磨いていこうという動きが出ているので、公民館活動と公教育をつなぐような取り組みを行い、ウェルビーイングの国際的なモデルになるような目標像を示すのも良いのではないか。深い人間性を養う教育やそれを後押しするということも考えられる。
- ・P78 の東海道新幹線エリアの圏域形成強化について、沿線の都市間の連携のことをもう少し強化するべき。沿線の 10 万人を超える 11 の都市を意識して 11cities のように連携の目標を示すことは重要である。
- ・新幹線のみならず、静岡は在来線が弱い。生活の質を上げるために新幹線のみならず両者を考える必要がある。
- ・三遠南信の圏域形成強化について、三遠南信エリアと静岡県中部の連携を図ることで中央回廊のポテンシャルを上げることができると考えている。
- ・広域連合の仕組みの活用について、県境を超える広域連合を作ることは、合意を取ることが難しい。県境を超える諸プロジェクトを相乗的に発展させるため、大学の連携などを強化した産学官民のプラットフォームの形成について、記載する必要がある。
- ・越境連携による都市圏の拡大についても、デジタル化に基づいた新たな広域連携のあり方を出していくべきである。
- ・P83 の多様な主体との連携について、「計画と多様な主体の連携」なのか、それとも「多様な主体の連携」と読むのかわかりづらい。広域化によって、どのように民力を引き出すのか、そのための連携や共同の体制をどう作るのかということが重要。そういう点を記載して欲しい。

#### (奥野座長)

- ・標準的なハードは行政が整備するが、そこで活動して街を磨いていくのは、住民や市民など多様な主体になる。主体との連携だと、行政と多様な主体との連携という意味にとれてしまうため、多様な主体の連携でもいいかもしれない。

#### (野口委員)

- ・P31 のユニバーサルデザインの理念は、「どこでも誰でも自由に使いやすく」ではなく、「年齢や能力、状況などに関わらず、できるだけ多くの人が使いやすく」という、できるだけ多くの方たちに利用できるようなものというのが重要なポイント。
- ・P33 のユニバーサルツーリズムの普及促進について、海外では経済指標が使われている。バリアフリーやユニバーサルデザインが広まらなかった一番の要因は儲からないと思われているところ。障害者や高齢者が旅行することによる経済効果について知っていただくことにより、観光事業者が動き出すと思われる。また、課題解決型 NPO 等の育成促進について、育成だけではなく、支援をして

いくといった記述を入れて欲しい。

- ・P57 に歴史建造物を活かすとあるが、そこで儲けるためだけに人が集まつてくるという現象が出てきているようだ。儲からなくなつたら違うところに出て行ってしまうのではなく、生業としてどっしり構えていただくために、歴史的背景を知つていただけるような育成をして欲しい。

#### (増田委員)

- ・人口減少に関して、出生率が低下している中で、人口流出を防いだとしても人口は減少していく一方である。そのため、教育支援だけではなく、価値観を変えていく必要がある。女性や外国人への支援について記載されているが、男性への教育や意識改革の記述があると良い。
- ・P57 の人を惹きつける地域力向上について、自然環境に関する記述を入れるべき。
- ・P59 の農林水産業の活性化について、人材不足に陥っているのは、女性が農業をしてはならないという価値観があるのが一つの原因と考える。その点について、記述が必要である。また、伝統野菜や、伝統的な農業、漁業に関する記載があると良い。
- ・P61 のひとづくり・つながり構築プロジェクトでは、教育についても記載するべき。また、女性をはじめとした多様な人材の活用の取り組みが記載されているが、女性が働くことに関して、許容するのではなく、応援するシステムの構築が必要だと感じる。
- ・P64 の災害復興については、近年災害時には環境に配慮して復興しているので、触れていただきたい。
- ・P69 の 5-1-1 のネイチャーポジティブ推進について、絶滅の恐れが高い種を動物園等に移動させるのではなく、最初に絶滅の恐れがある生き物が生息する環境を保全するべきであり、そのことを記載する。
- ・P70 の 5-2-10 では、干潟・浅場・藻場の造成を行つてきている旨の記載があるが、主語がない。その他にも主語、述語が対応していない文面が見受けられるため、修正が必要。
- ・伊勢湾はきれいにはなつてきているが、理由として海の下に栄養塩が沈殿しているからである。栄養塩の循環を行い、溜まつてある栄養を活用するようなシステムを構築してもらえると良い。
- ・P71 の 5-3-6 に浚渫土砂や廃棄物を受け入れるための海面処分場の整備を推進するとの記載があるが、せっかく国土交通省が浚渫土砂を活用した干潟造成等の取り組みを行つていているため、記載してはどうか。

#### (村上委員)

- ・人口減少と少子化の課題は全国共通であるが、活力ある中部圏をサステナブルに作り続けるためには、特に中部圏においては最重要課題であるという言葉を使い、記載するべき。
- ・人材育成については、外国人も含めて全員が安心して住むことができるよう医療、妊娠、出産、育児に加え、教育人材の確保が必要。また、高齢者・障害者支援の人材確保のために、「確保」という言葉をもっと頻繁に記載し、県や市町村が主体となる人材確保を支援していくという記述をして欲しい。
- ・「女性支援」ではなく、「男女共同参画」や、「多様性社会に対応」等の言葉を使用した方が、現代にあつている。
- ・誰も見捨てないというメッセージにもなるため、「オール中部」という言葉を使って欲しい。

また、計画立案過程においては、市町村照会やパブリックコメントの他にも地域住民の意見を取り入れる必要がある。

- ・今回の議題ではないが、第4部の計画の進捗管理でモニタリングを適切に行う旨の記述があるが、モニタリング指標や数値目標は、個別事業の箇所に盛り込まれるのか。

(事務局：大竹中部圏広域地方計画推進室総括副室長)

- ・進捗管理については、個別事業ごとに事業の進捗等を指標で表しながら、年度毎に管理していくようなモニタリングを考えている。

(村上委員)

- ・資料2のスケジュール表に記載してある個別事業の箇所に示されるということか。

(事務局：大竹中部圏広域地方計画推進室総括副室長)

- ・今後、計画をまとめて公表した後、計画の実行を進捗管理していく段階においては、事業の個票を整理し、数値を確認しながら、モニタリングしていきたいと考えている。

(村上委員)

- ・モニタリングには数値目標の設定が必要であるため、明確に示すべきと考える。

(佐藤整備局長)

- ・同時期に社会資本重点整備計画のブロック計画の策定を予定しており、それぞれの施策毎にKPIを設定しているため、そこで具体的な進捗管理を行う予定である。社会資本重点整備計画のブロック計画には多くの数値目標を示すことになるため、両計画で併せて進捗管理を行っていくことで考えている。

(奥野座長)

- ・KPIを掲げることは大変であるが、十分に議論して考えていただきたい。

(森川委員)

- ・P77の7-1-2に名古屋駅構内の案内を分かりやすくするとの記述があるが、その前に名鉄名古屋駅の大規模改修によって、見違えるように便利になるという点を記載するべき。
- ・P79の7-3-1にリニア山梨県駅（仮称）、リニア長野県駅（仮称）、自動車道の記載があるが、リニア岐阜県駅の具体的な記述がない。濃飛横断自動車道が早期開通するかどうかが、リニア岐阜県駅の効果に大きく関わるので、ぜひ計画にいれてほしい。

(植松委員：事前コメント)

- ・少子化、生産年齢人口の減少、若者の志向変化などから製造業の人手不足も厳しい状況となっており製造業 vs 他産業、あるいは中部圏 vs 他地域との人材獲得競争が厳しくなっている。
- ・弊社においても製造現場では必要な人員が集めることに苦労する状況が続いている、エンジニア

やオフィススタッフも慢性的に人員不足の状況。キャリア採用活動をしているが、東京での採用に比べ、愛知での採用には大変苦労をしている。

- ・弊社としては、より多様な人材が活躍できる職場づくりなど人材確保につながる取組を更に行っていくが、製造業は裾野が大変広く、2次、3次の仕入先様等、サプライチェーン全体を見ると更に苦労されていると聞いている。「このエリアでの産業の維持」という観点で、今後、中小企業に向けた支援策や魅力ある街づくりなど、中部圏への人材誘致につながる取り組みを行政をはじめ関係する皆様とも連携して幅広く進めていく必要があると考える。

#### (白鳥委員：事前コメント)

- ・地方創生を20年やっているが、成果が見えない。例えば給食の無償化は1年に2億円、10年で20億円かかる。不交付団体なら可能かもしれないが、個々の自治体の努力には限界がある。国に大なたを振るってほしい。
- ・無人VTOL(ブイツール)は雨や霧等の悪天候でも航行でき、200kgまでの貨物を運べ、連続航続距離も100kmを超えるなどドローンでは不可能な物資の運搬も可能である。  
買い物支援等の生活サービス支援だけでなく、災害対応にも活用できることから、VTOL(ブイツール)の開発、活用について記載してもらいたい。
- ・能登半島地震の際にインフラの復旧に時間を要した経験を踏まえて、ガスや水道については、プロパンガスや簡易水道など、ローテクであっても災害時に使えるものを残していく視点を持つべき。

#### (福和委員：事前コメント)

- ・南海トラフ地震に関しては、時間の経過と共に切迫度が増しているが、残念ながら、現状、国民や民間の対策が遅滞しており、相変わらず甚大な被害が懸念されている。
- ・元日に起きた能登半島地震では、過疎地などの防災対策の課題やリソース不足が多く明らかになっている。こういった中、各自治体は精力的に災害対応の見直しを行いつつ、一方で、自然環境、グリーンインフラ、カーボンニュートラルなど環境対策も、重要度が一層増している。
- ・そこで、前回の議論のあとに発生した能登半島地震を受け、「目標4 恵みの活用、圏土の強靭化」を「目標4 恵みの活用」と「目標5 圏土の強靭化」に独立させることを提案する。  
強靭化に関しては、4月に新たに火山調査研究推進本部が設置されたことを勘案し、南海トラフ地震などの地震や激甚化する風水害への対策に加え、富士山や中部山岳地帯などの火山対策を加えると共に、能登半島地震でも生かされた新たな防災技術の創出や孤立地域の自立力強化と2地域居住化など、前向きな防災の視点が加わると良い。

#### (奥野座長)

- ・福和委員の提案にもあったが、特に目標4「恵みの活用、圏土の強靭化」については二つに分けても良いと思う。目標5として、「圏土の強靭化」をあげたらどうか。これまで南海トラフや内陸部の大規模災害の検討がされてきているが、能登半島の地震では、その一つ一つにまた再検討を迫るような状況である。
- ・今までの目標4の「恵みの活用」について、これを目標4で、「恵みの活用」だけだと若干弱いため、「自然の恵みの保全と活用」や「豊かな自然の保全と活用」など、事務局で考えていただきたい。

**(末松委員)**

- ・南海トラフの想定の見直しについて、中部地域の想定が変わってくるということが分かっているので、「圈土の強靭化」については別立てにすることを、私からもお願いしたい。

**(奥野座長)**

- ・目標1の「魅力あふれる地域の創出」は、目標2、3に比べて中部らしさに欠ける。「生活の質が高い」という言葉を使いたいが、中部圏の将来像フレーズすでに使っているため、「すべての地域が魅力あふれる圏域の創出」としてはどうか。事務局で工夫していただきたい。

### 3. 閉会

**(事務局：佐藤中部圏広域地方計画推進室長)**

- ・各委員の皆様方、貴重なご意見ありがとうございました。
- ・鶴田委員からお話のあった、産業が散らばっている件について、中部圏が二本目の柱にあるように、産業も強い地域。一番上の地域に密着した産業、観光も産業として位置づけられる。世界をリードする産業、強靭化というところでも、産業の防災力という意味であらゆるところに関係がある。愛知県もこの秋にステーションAIというのを立ち上げるということで、新産業、イノベーション、スタートアップ、経済界と一緒に一生懸命やっている。女性や若者が就労しやすい環境ができるか、大学、大学の連携、すべてが繋がってくる。
- ・事務局としても各機関とよく議論しながらいただいた意見をしっかりと受け止めてまいりたい。
- ・今日の状況としては、危機感の認識が共有できたのではないか。
- ・根底にある価値観を分かるようにしながら、大事にいきたい。
- ・前回の有識者会議から半年経過し、能登地震が起き、南海トラフについても見直しが行われている最中である。事務局で1回預かり、再構築をしながら中身を深めていきたい。

**(中部運輸局：金子局長)**

- ・4つの目標を実現するためのリーディングプロジェクト、中身の施策について、より具体的な突っ込んだお話をいただき、しっかりと受け止め対応していきたい。
- ・私が今担当しているところでも、例えばライドシェア、観光の広域連携、リニアの関係のお話について、刺さるものがあった。
- ・この後の中間とりまとめ、その後の決定に向け、作業を進めていく。様々な場面でお力をお借りするため、引き続きよろしくお願ひしたい。

以上